

まちかど

アルバム

すく・書く・触れる 因州和紙フェア

布勢

1月7日(土)、鳥取県民体育館で因州和紙フェアが行われました。これは、紙すきやシルクスクリーン版画などの体験を通して、



鳥取県の特産品である因州和紙をより身近に感じてもらおうと毎年実施しているものです。原料に楮こうぞが使われている因州和紙は、強度にすぐれ、書道や障子に用いられます。会場は、同時開催の書初め大会に参加するために訪れた家族連れで賑わいました。会場の一角に設けられた、折り紙体験コーナーには、子どもからお年寄りまで、多くの人たちが挑戦。因州和紙を型染めした「友禅紙」を用いて、日本折紙協会の講師の指導のもと、今年の干支である龍を立体的に折りました。参加者は、胴体の複雑な折りや、角や足の細かい折りに苦戦しながらも、ていねいに



少しずつ折り進め、桜や笹の形に切った和紙をあしらった作品を完成。体験した子どもは、「体を折るのが難しかった。持って帰って自分の部屋に飾ると、色鮮やかに仕上がった作品にとっても満足そうな表情でした。」



1月6日(金)、河原歴史民俗資料館で民俗行事「七草がゆと鳥追い」が行われました。これは、昭和55年から続く伝統行事で、歳男が囲炉裏のそばで恵方に向かい、七草を揃えたまな板をスリコギなどで交互に打ち、「唐土の鳥が日本の土地に渡らぬさきに七草ナスナを揃えてホーホー」と3回唱えます。行事に参加した河原第一小学校の児童と地域の人たちは、五穀豊穡と災害のない1年になることを願い、全員で一緒に唱えました。その後はみんなで七草がゆを食べ、改めて1年の無病息災を願いました。

河原町渡一木

民俗行事「七草がゆと鳥追い」



用瀬町屋住

歌って踊れる紙芝居ライブ

12月26日(月)、用瀬町屋住の古民家で、紙芝居ライブが開催され、親子約40人が参加しました。山陰を拠点に活動している「よしととひうた」の軽快な音楽と魅力的なキャラクターが登場する新感覚の紙芝居で、参加した子どもたちは、クイズに答えたり、リズムをとりながら一緒に歌ったりして楽しめました。また、絵と音楽だけで日本の四季を表現した作品では、いつのまにか紙芝居の風景の中にスッと入り込んでしまうような不思議な感覚に、大人も自然と引き込まれました。参加者全員が大満足のひとときでした。



1日限定のスイーツカフェ
一階町二丁目

12月18日(日)、鳥取市の歴史文化財である五臓圓ビルに、鳥取のスイーツが大集合。これは、因幡の甘味を広める活動をしている団体「あまぶろ」が実施した、「まちなかスイーツカフェ」というイベントで、ロールケーキや焼きドーナツなど、5品のスイーツが1皿で味わえる甘党にはたまらない企画です。訪れた人たちは、地元素材の味を生かしたスイーツに舌鼓。見た目も味もさまざまなお皿を囲んで、会話も弾み、「生クリームや焼き菓子のバランスがよく、全部おいしく食べることができた」と、大満足の様子でした。



新春 書初め大会
佐治町加瀬木

1月6日(金)、佐治地区公民館主催の「新春 書初め大会」が佐治町中央公民館で開かれました。小学生を中心に25人が参加し、講師の森田きくのさんの指導のもと、当日の課題に挑戦したり、「ひかり」・「伝統を守る」などの冬休みの課題をこなしたりと、それぞれが一生懸命に筆を走らせます。

中には、出来栄えに満足できない児童が、「もう1回書かせて」と納得のいく書ができるまでこだわりを見せる場面もありました。どの作品も、今年1年がよい年になるのではと、期待が持てる力強く躍動感に溢れたものでした。



身近な伝説を学ぶ
気高町浜村

12月11日(土)、「郷土の歴史・文化にふれてみる」をテーマとした「気高町歴史講座」が気高町中央公民館で開催されました。今年度第1回目となったこの日は、講師の気高町文化協会会長・中林保さんが、「伝説・伝承の原像」について「日光根元記」「因幡志」などをひもときながら講演。受講した26人は、古くから言い伝えられている身近な伝説について詳しく学びました。気高町中央公民館主催のこの講座は、2月26日(日)と3月19日(月)にも開催が予定されています。



収穫祭 新そばでそば打ち教室
青谷町山根

12月24日(土)、日置地区公民館で、新そばのそば打ち教室が行われました。日置地区では、一昨年から「和紙の里ふれあいそばづくり」事業に地域ぐるみで取り組んでいます。昨年も、種まきや収穫などに、小学生から大人まで多くの人が関わりました。台風の影響で一昨年の1割程度の収穫しかありませんでしたが、10倍の競争に勝ち残った貴重な日置産そば粉を、練り、めん棒で伸ばし、折たたんで細く切り出上来ががり。ゆであがったそばはとてもおいしく、おかわり続出。みんなであいながら収穫祭を楽しみました。